

ウォーターフロント地区（中央ふ頭・博多ふ頭）再整備について

1. ウォーターフロント地区再整備構想【平成28年3月策定】（別添参照）

(1) ウォーターフロント地区再整備の目的

- 福岡都心部の国際競争力を強化し、九州・西日本の発展に貢献
天神・渡辺通地区、博多駅周辺地区に次ぐ新たな都心拠点として、世界から人を呼び込み、世界に向けて発信する、九州・西日本の発展に貢献するまちへ
- MICEやクルーズなどの需要の増加に対し、都市機能の供給力の向上
供給力不足が顕在化している都市の機能を充実させ、更なる都市の成長へ
- 海辺を活かした賑わいと憩いの空間形成
都心の貴重な海辺空間を市民が日常的に集い、憩えるまちへ

■計画対象区域図



(2) ウォーターフロント地区再整備構想の概要

- 対象区域 ・中央ふ頭・博多ふ頭の概ね65ha
- 策定の目的 ・市民や民間事業者の方々とまちの将来像の共有
・地区全体の計画的なまちづくり
- 目標年次 ・概ね20～30年後
- 内容 ・再整備の目的、市の強み、地区のポテンシャル、まちの将来像、土地利用、交通・回遊機能強化、景観形成、持続可能なまちづくりの基本方針等で構成

■まちの将来像

「身近な海辺，世界中から訪れる人々，新しい出会いと交流が生まれるまちへ」

<まちづくりのコンセプト>

- ① 市民や来街者が海辺を楽しめる賑わいや憩いの空間づくり
- ② MICEや海のゲートウェイとして
賑わう国際的な交流空間づくり
- ③ アジアのゲートウェイとして
世界に開かれた新たな拠点づくり



■将来の土地利用の方針図



※施設等の配置は民間の活力や創意工夫等をいかすため柔軟に検討を行います。

■交通・回遊，景観の方針図



2. 国の動向

■ H28.3.30 「明日の日本を支える観光ビジョン2016」

- ・ MICE誘致の促進 政府レベルでの誘致支援体制の構築
- ・ クルーズ船受入の更なる拡充 2020年にクルーズ旅客を500万人

■ H28.6.2 「日本再興戦略2016」 (PPP/PFI等による公的サービス・資産の民間開放拡大)

- ・ 公的サービス・資産の民間開放により、①新たなビジネスチャンスの創出、②民間の知恵を活用した住民サービスの向上、③効率化の促進による公的負担の軽減、を図るため公共施設等運営権方式を含め、PPP/PFI等を大胆に推進。

3. 今後の取組み

- 「ウォーターフロント地区再整備構想」に基づき、インバウンド施策をはじめとした国の動向も見据えながら、九州・西日本の更なる発展に向けて、
・ ゲートウェイ機能・MICE機能の強化や賑わいの創出
・ 民間の活力を最大限生かした官民連携のまちづくり
などについて、港湾空港局・経済観光文化局・総務企画局等の関係局とも連携しながら検討を深化させていく。
なお、事業化に向けては、運営権制度の活用なども含めて、幅広く事業手法の検討を行うとともに、交通環境の改善方策等についても検討を行っていく。

